

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	3	対象	第 1 学年
担当者	内田隆博、内田敏、三浦周輔						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
啓林館 深進数学 I			啓林館 深進数学 I 啓林館 Grasp 数学 I + A 授業プリント			117	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・式の展開 ・因数分解 ・実数 ・根号を含む式 ・1次不等式 		基礎的な計算法則や概念を理解し、式の展開や因数分解を解くことができる。数の性質や展開公式を活かし、工夫して因数分解を解くことができる。 主体的に課題に取り組むとともに、授業内での発表に前向きに取り組むことができる。また、他者と協働し課題に取り組むことができる。			46
	5						
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・関数 ・2次関数のグラフ ・2次関数の決定 ・2次関数の最大・最小 		2次関数の特徴を理解し、グラフを書くことができる。 2次関数の平行移動、対称移動、最大値・最小値を求めることができる。また、具体的な事象に2次関数を用いることができる。 主体的に課題に取り組むとともに、授業内での発表に前向きに取り組むことができる。また、他者と協働し課題に取り組むことができる。			
2 学 期	7						
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式 ・2次関数のグラフとx軸の共有点 ・2次不等式とその解 		因数分解や解の公式を用いて、2次方程式を解くことができる。 2次方程式と2次関数の関係を理解し、2次関数の共有点や2次不等式の解を求めることができる。 主体的に課題に取り組むとともに、授業内での発表に前向きに取り組むことができる。また、他者と協働し課題に取り組むことができる。			50
	10						
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・鋭角の三角比 ・三角比の相互関係 ・三角比の拡張 ・三角比と方程式 		三角比の意味を理解するとともに、三角比を求めることができる。また、三角比の相互関係を理解することができる。 三角比の有効性を理解し、それらを事象の考察に活用することができる。 主体的に課題に取り組むとともに、授業内での発表に前向きに取り組むことができる。また、他者と協働し課題に取り組むことができる。			
12							
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理、余弦定理 ・図形の面積 		正弦定理、余弦定理を理解することができる。 正弦定理、余弦定理を具体的な事象の考察に活用することができる。			21
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・度数分布表とヒストグラム ・分散と標準偏差 ・データの相関と散布図、相関係数 		分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解できる。 データの散らばり方等から傾向を判断することができる。			
	3			主体的に課題に取り組むとともに、授業内での発表に前向きに取り組むことができる。また、他者と協働し課題に取り組むことができる。			
評価の観点		趣 旨				評価の方法	
知識・技能		各内容についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能を身に着けることができているか。				<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出課題 ・小テスト ・授業態度 	
思考・判断・表現		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に着けることができているか。				<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出課題 ・授業態度 	
主体的に学習に取り組む態度		自ら進んで数学を活用し、粘り強く課題に取り組むとともに、課題解決の過程を振り返って考察を深め、改善・発展させる態度が見られるか。				<ul style="list-style-type: none"> ・提出課題 ・小テスト ・授業態度 	